

長野県新型インフルエンザ等対策行動計画（案）に関するご意見・ご提言について
 （県民意見公募手続（パブリックコメント 8/26～9/24）によりいただいたご意見）

資料5

ページ	項目名	ご意見・ご提言	回答
		<p>新型インフルエンザ等対策行動計画に禁煙推進と受動喫煙防止対策が不可欠です</p> <p>1. インフルエンザのみならず、呼吸器感染症全般（上気道炎、肺炎、結核、季節性インフルエンザを含む）の罹患・重症化の予防、及び死亡リスク対策として「タバコ対策=禁煙推進、受動喫煙の危害防止」が重要ですが、新型インフルエンザ対策行動計画にこの「タバコ対策=禁煙推進、受動喫煙の危害防止」を基本対策として盛り込むことが不可欠です。</p> <p>2. 新型インフルエンザのパンデミックの予防・蔓延防止に備えて住民市民に禁煙を促し、受動喫煙の危害防止対策を推進すること、取り分け「受動喫煙防止条例」の早期制定が必要です。</p> <p>・インフルエンザと喫煙の関係は、喫煙者は非喫煙者の2.42倍インフルエンザに罹患しやすく、罹患すると重症になることが確かめられています。 （出典：「Lidia et al. Cigarette Smoking and Infection. Arch Intern Med. 2004;164:2206-2216」（喫煙者は非喫煙者の2.42倍インフルエンザに罹患し、症状が重くなる確率は、非喫煙者30%、ヘビースモーカー54%、インフルエンザ患者の31%は喫煙がなければ発病しなかった。））</p> <p>・またインフルエンザの死亡のリスク要因は動脈硬化を主とする心</p>	<p>喫煙については、新型インフルエンザ等のみならず、がん、循環器疾患、糖尿病、慢性閉塞性肺疾患などの危険因子であり、また、低出生体重児の要因の一つとなっており、また、禁煙者本人のみでなく、煙草の副流煙によるその周辺の人の受動喫煙も様々な疾病の原因となっております。特に、未成年期の喫煙は健康への影響が大きく、成人期での喫煙継続につながりやすいといわれています。</p> <p>さらに、たばこに含まれるニコチンに依存性があり、やめたくてもやめられないことが多いことが指摘されています。</p> <p>本県ではこうした点を踏まえ、たばこの健康への影響や禁煙についての教育・普及啓発を行うため、</p> <p>①未成年者への喫煙防止（防煙）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未成年者の喫煙状況の実態把握調査 ・実態把握把握調査の関係機関への情報提供 など <p>②受動喫煙をなくすための環境づくり（分煙）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・終日全面禁煙の施設（おいしい空気の施設）の認定制度 ・県民や事業場の管理者に対し、たばこの健康被害に関する情報提供 など <p>③禁煙支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町村や教育委員会、関係機関等と連携し、禁煙支援、喫煙防止教育に関する研修会の開催 など <p>を柱とした各種対策を推進しております。</p>

		<p>血管系疾患、糖尿病、呼吸器系疾患などであり、かつ喫煙及び受動喫煙は、これら疾患の予防可能なリスク要因です。（これらは喫煙で2～10倍増える）</p> <p>・従って、新型インフルエンザの罹患・重症化・死亡リスクを減らすためには、生活習慣病対策、とりわけ禁煙・受動喫煙防止推進が最も重要な対策のひとつです。新型インフルエンザ対策としてタバコ対策は非常に有効なので、これらの対策を行動計画に盛り込むべきです。</p>	
--	--	---	--